

先輩に続け P4

株式会社グラス R&D本部 先端技術研究部 担当
中村 雄軌

My Campus Life P5

総合科学部 社会総合科学科 3年 松前 理沙子
医学部 医学科 2年 森田 彩夏

徳大生大活躍 P6

研究室へようこそ P7

先端酵素学研究所 / 薬学部 教授 篠原 康雄

最先端研究探訪 P8

歯学部 教授 住友 倫子

魅力ある授業 P9

理工学部 講師 石川 真志

海外体験記 P10

総合科学部 社会総合科学科 3年 谷 優希

サークル紹介 P11

バドミントン部 / GREENS / 学びサポート企画部 /
女子バレーボール部

徳大ニュース P13

徳島大学基金 / 編集後記

徳大生の 就職活動の 特集

P1

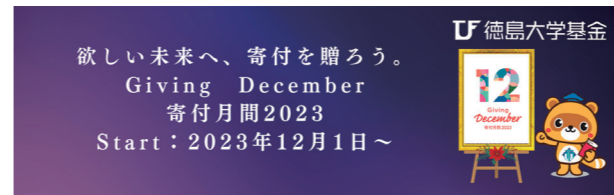


徳島大学基金の取組

「寄付月間～Giving December～」に 賛同パートナーとして参加しました

(2023年12月1日から31日まで実施)※
「徳島大学基金プロジェクトサイト」で特設サイトをご覧いただけます。

12月は寄付月間です。コンセプトは「欲しい未来へ、寄付を贈ろう」。1年の終わりの12月に寄付について考えたり、実際に寄付をしてみたりと、自分のできることを自分なりにやってみようというこの趣旨に徳島大学は賛同し、2023年に初めて賛同パートナーになりました。さらに、本学マスコットキャラクター「とくぼん」がマスコットアンバサダーに就任しました。皆さまからの温かい支援に感謝し、基金の活用方法や取り組みを学生・研究者が動画で報告しました。皆さま一人ひとりのご支援が、学生の成長と大学の発展に大きく貢献しています。2023年の一年間、ご支援誠にありがとうございました。



徳島大学基金報告会を実施しました

(2023年10月22日、29日実施)

蔵本祭(10月22日)および常三島祭(10月29日)にて、徳島大学基金の活用報告会を開催しました。特設ブースでは、感謝の意を表し、寄付の具体的な活用をわかりやすく紹介するために、ポスターやパンフレットを通じて、基金の成果を報告しました。興味を持っていただいた参加者の方々と交流の中で、基金へのご意見や感想、応援を多数いただき基金活動への関心が高まりました。今後とも多くの方々にご支援内容、進捗状況をわかりやすく伝えていきます。当日、お話を聞いてくださった皆さま誠にありがとうございました。



寄付者のご紹介

2023年7月から9月までの間に、徳島大学基金にご寄付いただいた皆さまのご芳名を紹介させていただきます。ご支援、誠にありがとうございました。

池田 真由美 様 加藤 浩 様 菊入 里奈 様 河野 敏隆 様
三和プラントエンジニアリング株式会社 様 田中 敏 様
眞鍋 佑都 様 山口 勝己 様 吉野 和嗣 様 (五十音順)

ご支援いただいた皆さまのご芳名につきましては、徳島大学公式ホームページでも掲載しております。徳島大学では、研究活動、修学や課外活動等の学生活動が充実していくよう引き続き学生、研究者に寄り添い支援していきます。今後も、徳島大学の取組および徳島大学基金の充実にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



徳島大学基金
寄附者のご紹介

【お問合せ先】徳島大学総務部未来創造課 Tel: 088-656-9979 E-Mail: dosokikink@tokushima-u.ac.jp

編集後記

薬学部 教授 山田 健一

皆さまもお気付きのことと存じますが、とくとtalkは本冬号からスリム化してお届けすることとなりました。物価が高騰する一方で、授業料は17年前から変わらず、国から交付される運営費は法人化後毎年削減され続けております。ついに本誌までも経費削減の一助となるのが求められるところまで来てしまったわけです。とは言え私たちはこれを紙面刷新の好機ととらえ、ますます充実した内容で大学の様子や在学生・卒業生の活躍についてお伝えしていきたいと考えております。本号は、初回ということもあり、まだまだ試行錯誤の段階です。ご不満な点もおありかと存じます。紙面づくりに活かしてまいりますので、皆さまの声をぜひお寄せ下さい。

徳大広報とくとtalk No. 194をお読みいただきありがとうございます。ご意見ご感想は下記にお寄せください。
発行: 徳島大学総務部未来創造課 〒770-8501 徳島市新蔵町2-24
Tel: 088-656-7646 E-mail: koho@tokushima-u.ac.jp
URL: https://www.tokushima-u.ac.jp/about/publicity/toku_talk
発行日: 2024年1月 本誌は年4回(4月、7月、10月、1月)発行



アンケートは
こちら

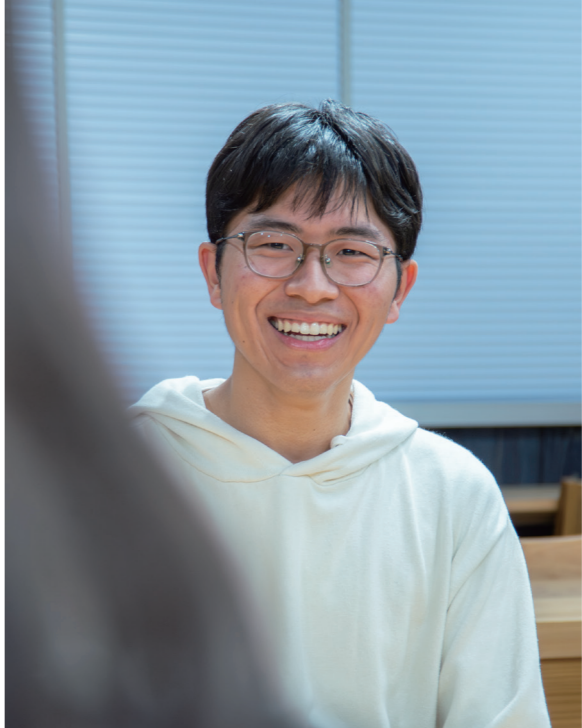


とくとtalk
バックナンバー



徳大生の徳大生による徳大生のための 就職活動記

ほとんどの学生が初めて経験する就職活動。また、企業の考え方や求められる人材も多様化している現代社会。徳島大学の学生は、一体どのような就職活動を行っているのか。総合科学部2年生の鶴本さんがインタビューとなり、就職活動を終えた先輩たちの活動や考えを掘り下げます。



●インタビュー
総合科学部 社会総合科学科 2年
鶴本 雄大 (つるもと ゆうだい)
徳島県徳島市出身



●内定者
大学院医科栄養学研究所
医科栄養学専攻 博士前期課程
寺川 舞 (てらかわまい)
愛知県出身
内定先：日本食品化工株式会社
リフレッシュ方法：好きな音楽を聴く

自分の中で自信を持つ ということが大事

鶴本 今日はよろしくお願ひします。さっそくですが、自分はまだ2年生で就職活動って何なんだろうとあまり掴めていないので、こ

れが就活だ！というエピソードを教えてほしいです。

鶴野 エントリーシートを提出して、「残念ながら…」というお祈りメールが来た時、これか…！と思いました。全員（笑）。

大前 私は自己分析の重要性ですね。右も左も分からない時に、とりあえず自己分析を進めていきましようというのを見て、自己分析とは何ぞや、それって大事なのか？と思ったけど、やり始めたら自分がどういう人生を辿ってきたかという想いなのか、何がしたいのか見えてきて…。就活の目的が始めたけど、自分自身の深みが出てきた気がします。

寺川 私はタスク管理が大事だと痛感しました。研究室では成果を出さないといけないし、かといって就活もある中で、時間やタスクを書き出すように気を付けていました。

大前 3年生の春はモチベーションが全然高くなって…。夏にアステイとくしまで開催された合同説明会で、みんながスーツを着て企業の説明を聞いていて、「やらないと…」という気持ちが湧いてき

ました。自分は人から影響を受けやすいので、セミナー、説明会、インターンシップに積極的に参加していました。他の就活生がすごく賢く見えてしまうのですが、焦りからくるエネルギーでモチベーションを保っていました。

鶴野 自分の中で自信を持つということが大事だと思います。自分ができると仮定して、自分はこんなものじゃない、まだ上にいけるといいう気持ちで。選考に落ちた時は悲しいけど、落とした会社は見る目がない！という反骨精神でモチベーションを保っていました。

鶴本 就活中に特に苦労したこと
はありましたか。

鶴野 生活リズムが崩れて眠れなかったことです。結局克服することはできなくて、就活の結果が出てやっと克服できたと言えます。駆け抜けました。

寺川 体力が無かったので、ホテル暮らしをしながら面接に行っていたのが大変でした。でも、移動中に睡眠時間を確保したり、好きな曲を聴いたり、面接だけに行くと思うとしんどいのでその土地のおいしいものを食べることをモチベーションにしていました。

大前 選ぶ基準が他人軸になっていたことです。自分がしたいこと、やりたいことよりも、親など周りが喜んでくれるところを無意識に探していました。他人軸になりすぎて、自分って何なんだろうとなってしまうので、一回全部頭を真っ白にして、自分が何をし

たいのかを紙に書き出しました。そうしたら、私は徳島にいたくて、地方創生がやりたくて、人と関わる仕事に就きたいんだとまとまって、たまたま周囲の想いとも一致していたので、ここにしようと思えることができました。

鶴本 どんな風に就活の情報を得ていましたか。

大前 私は人に頼るべし！ということでもキャリア支援室や、学部にもキャリア支援をしてくれている方がいるので助けられました。エントリーシートもキャリア支援室等で見てもらっていました。

鶴野 まずは気になる企業をリストアップして、就活サイトをチェック。その後企業の採用サイトにリンクするので、そこから情報を得ていました。大学院は縦の繋がりがあがるけど、学部は先輩に聞くという風潮がないので…。

何でも一生懸命やるのがいい

鶴本 就活をするときにやっておいてよかったこと、やってあげばよかったことは何ですか。

寺川 アルバイトはやっていてよかったです。言葉遣いとか、声のトーンとか目上の人との付き合い

方を学ぶことができました。鶴野 僕は面接でアルバイトの話はしてなくて、基本的に大学でのゼミ活動とか部活動の話をしました。ゼミ活動では引張っていい役で、部活動は初心者だったので会計などサポート役をしていました。おそらく企業は、どちらのタイプの人材が欲しいというのがあると思います。その時に、色々な役ができるということを伝えられたらいいなと。色々な立場を経験すること、自分の意思を持ってやっていくこと、普段からそれを考えながら過ごしていました。

寺川 好きなことを極めるの



●内定者
総合科学部 社会総合科学科 4年
大前 理咲子 (おおまえりさこ)
徳島県阿南市出身
内定先：株式会社阿波銀行
リフレッシュ方法：人と話す、美味しいものを食べる、カフェ巡り、運動



●内定者
総合科学部 社会総合科学科 4年
槇野 涼太 (まきのりょうた)
徳島県徳島市出身
内定先：日亜化学工業株式会社
リフレッシュ方法：散歩(歩きながら考える)

いかなと思います。就活の気分転換にもなるし、趣味が高じて興味のある企業や別の夢が見つかったりもするので、何でも一生懸命やるのがいいと思います。

人にやったことは必ず返ってくる

鶴本 今、就活に向けていろいろやらなきゃと思って、裾野を広げて過ぎて取捨がついていなくて…。色々抱えすぎないようにどうすればいいですか。人に頼るコツも教えてほしいです。

寺川 まずは自分のキャパを把握



すること。自分の作業する能力を見極めたいので、どうアプローチしていくかを決めていました。

大前 締め切りに関してタスク管理ですね。朝起きて、50分スタを見て達成したら消す。あと、色々立て込んで、「どうしよう、やばい」と思ったら、一回やめる。友達とご飯にいったり、好きなことをしてリラククスする。自分には人に悩みを聞いてもらって発散します。結局、最後はみんなどうにかなるというテンションで(笑)。

鶴本 先輩たちの話をたくさん聞かせていただいて、漠然とですが、一人で抱えこまず周りを信頼できる、また周りに信頼される社会人になりたいと思います。

寺川 みんな、最終的に収まる場所に収まってるよね。

寺川 人に頼ってもらえる人になりたいなあと思っています。組織に属する上で、人間関係が大きいと思うので、頼り頼られる雰囲気を作っていける人になりたいと考えています。

大前 人はやったことは必ず返ってくるって感じています。あと、「察してほしい」はまずい。自分のキャパを超えたらSOSを口に出すことが大事だと思います。

寺川 人に頼ってもらえる人になりたいなあと思っています。組織に属する上で、人間関係が大きいと思うので、頼り頼られる雰囲気を作っていける人になりたいと考えています。

大前 人はやったことは必ず返ってくるって感じています。あと、「察してほしい」はまずい。自分のキャパを超えたらSOSを口に出すことが大事だと思います。

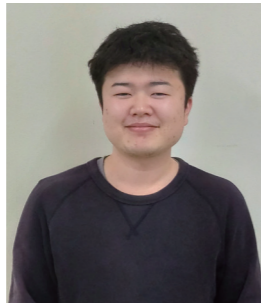
寺川 人に頼ってもらえる人になりたいなあと思っています。組織に属する上で、人間関係が大きいと思うので、頼り頼られる雰囲気を作っていける人になりたいと考えています。



キャリア支援室の紹介

先輩に続け

チャンスは身近なところにある



株式会社グリラス R&D本部 先端技術研究部 担当
中村 雄軌 (なかもらゆうき)

出身地：香川県
略歴：2022年9月 大学院先端技術科学教育部 物質生命システム工学専攻 博士後期課程 修了
2022年10月 株式会社グリラス 入社 R&D本部先端技術研究部 配属

私は、2022年9月に大学院先端技術科学教育部物質生命システム工学専攻の博士後期課程を修了し、同年10月から現在の株式会社グリラスの先端技術研究部に就業することになりました。グリラスは、徳島大学発のベンチャー企業であり、近い未来起こりうる世界的なタンパク質不足問題を解決するため、新たなタンパク源として期待されるフタホシコオロギを使った商品などを販売しています。私は現在、フタホシコオロギに新たな付加価値を付けた品種の

研究開発に携わっています。食品としての利用だけでなく、フタホシコオロギの体内でワクチンや機能性成分を作らせることで、医薬品やサプリメントとしての利用を目指しています。

学生のみなさんへ

私がこの会社に入社した経緯は高校時代の経験から繋がります。高校の授業で、プラナリアの再生に触れ、生物の再生能力について興味を持ち、コオロギの脚の再生

メカニズムの研究をしている徳島大学に入学しました。そして、念願のコオロギの研究をしている研究室に配属することになり、そこで初めて最先端の技術であるゲノム編集技術を学びました。約7年間の研究生活では、先生方のお陰で多くの知識を学び、経験を積ませていただき、今の仕事に活かされていると思います。大学院までは、アカデミアの道に進もうと進路を考えていました。しかし、自分の研究室から新しくベンチャー企業を立ち上げることを知り、先生から入社のお誘いを受け、またアカデミアより人々の生活に近いところで自分の持っている技術を活かしたいと考えたので、この会社に入社を決めました。私のように必ずしも遠い過去からの興味や経験、環境が今の仕事に繋がるとは限りませんが、自分の進路に繋がるとは意外と身近な生活の中にあると私は思っています。そのチャンスを活かすためには、ありきたりですが何事にも興味を持って体験してみることが大事だと思います。みなさんの大学生活の中で何となく過ごすことがあれ



グリラスの美馬研究所



研究中の風景

徳島大学発ベンチャー企業とは…

本学または本学教職員もしくは学生が所有する知的財産権を基に、新たな技術・ビジネス手法を事業化する目的で、新規に設立された企業。本学では、2016年11月に徳島大学発ベンチャー認定制度を制定し、大学発ベンチャーの円滑かつ適正な支援を行っています。

2023年12月18日現在の認定ベンチャー数：**34件**



徳島大学発ベンチャー企業一覧

大学院に進学した学生の声



大学院創成科学研究科 理工学専攻 1年 **狩野 尊弘** (かのうたかひろ) 兵庫県出身 リフレッシュ方法：友人とのご飯

Q. 大学院進学を意識し始めたタイミングはいつですか？
A. 2年生の夏頃です。1、2年生の頃は昼から夜まで学校、その後部活、夜中にアルバイトというサイクルで無我夢中の2年間でした。大学院進学については家族に相談して、兄も大学院に進んでいたので勧められました。また、部活の同期も大学院

に進学する予定だったので、一緒に頑張ろうと話をしていました。
Q. 大学院に進学するか就職活動をするか悩まなかったか？
A. 意識し始めた時点ではあまり考えていなかったのですが、1年間研究して4年生になった時に、あまり応用ができていないと感じて、もっと学びたいと考え始めました。また、オープンゼミに行って先輩の研究を見ていると、こういう考え方があるのかという新しい発見もあったり、自分が知らないことがたくさんあって、やはり進学したいと思いました。
Q. 大学院に進学してよかったことは何ですか？
A. 学部の時に比べて、学びの意欲が上がりました。授業関連の本を読んだり、知識量が格段に増えたと思います。もう一段深みが増しました。
Q. 大学院進学前にしておけばよかったことは何ですか？
A. 進学してからのことをもっと先輩に聞いてイメー

ジしておけばよかったです。
Q. 大学院進学と就職活動で悩んでいる後輩へのメッセージをお願いします。
A. 大学院進学するにも就職活動するにも、まずは基礎をしっかり定着させておくべきだと思います。迷っているならとりあえず勉強しておく、選択肢を持つことができる。あと、自分が部活でハンドボールに打ち込んで、一部昇格や初めて西日本大会に出場できたこともネタに繋がりました。なにかしら強みになるように、打ち込んでほしい。やりたいことが見つからない、もっと深く学びたいという人は、ぜひ大学院への進学を考えてみてください。



大学院 創成科学研究科



学際的次世代研究者育成プログラム(奨学金)

部活や研究に情熱を注ぎ、有意義な学生生活を送っている様子を取材しました。



4年ぶりの完全復活！
**徳島大学 大学祭
 常三島祭&蔵本祭**
 2023年10月21日・22日に蔵本キャンパスの蔵本祭、28日・29日に常三島キャンパスの常三島祭を開催しました。コロナ禍で一部制限された学生生活を過ごし、4年ぶりに完全復活した一大イベント。手探りで作り上げた今年の大学祭は、学生だけではなくご家族や地域の皆さまにもたくさんお越しいただき、笑顔溢れる大学祭となりました。



X (旧 Twitter)



Instagram

まだまだあります! 大学祭の思い出アルバム

大学公式SNSには、誌面に掲載しきれなかった写真を多数掲載しています。ぜひ左のQRコードよりご覧ください。

「徳島大学常三島祭復活! 4年ぶりのリアル開催へ向けての挑戦!」

常三島祭実行委員会が挑戦したクラウドファンディングに温かいご支援ご声援をいただき、ありがとうございました! ご支援いただいた皆さまのおかげで、たくさんの新しい企画を用意することができました。ぜひ、下記QRコードより活動報告等ご覧ください。



(参考)
 常三島祭実行委員会
 プロジェクトページ

常三島キャンパス

再生回数970万回!
 しなやかで優美な阿波踊りは必見

総合科学部 社会総合科学科 3年 松前 理沙子 (まつまえりさこ)



松前さんの踊る様子は
 大学 YouTube をチェック!

阿波踊りの有名連「あびす連」で、女踊りの部長を務め、練習風景を撮影したInstagramのリール動画は970万回再生(2023年11月時点)され、後藤田徳島県知事からも激励をうけました。「この夏は夜遅くまで踊りの練習や指導を行い、帰宅後に授業の課題を...ととても忙しかったのですが、ちびっ子(阿波踊りの子供部門)もたくさん入ってくれて、阿波踊りを見に行きたいと言ってくれる人も増え

ました」と反響を振り返ります。冬になり、ようやくオフシーズンかと思いきや、月に1回阿波おどり会館での定期公演やイベント出演、遠征もあり、練習は続いているといいます。来年度はいよいよ就活。「阿波踊りもプライベートも就活も、全部がんばりたい。どれかが犠牲になってしまうと後悔すると思うので、今夏の経験をいかして両立できるようにしたい」と意気込みを語りました。

蔵本キャンパス

目標は、日本女子アマチュア選手権出場

医学部 医学科 2年 森田 彩夏 (もりたあやか)



2023年、四国女子学生ゴルフ選手権で優勝し、西日本医大体育大会では個人、団体共に優勝を果たした森田さん(医学部ゴルフ部は毎週月曜・水曜の18時~21時まで松茂町のモリカンランドで練習しています。初心者歓迎!)

今、目標にしているのは日本女子アマチュア選手権出場です。「出場するには四国女子アマで上位に入らないといけないんですが、ジュニアや高校生でもめちゃくちゃ上手い子がいるので、負けないよう、がんばります」。ゴルフと学業の両立はかなり大変そうですが、「どちらか片方だけだと行き詰まってしまう。両方あるから、どちらもやれているんだと思います」と、いいバランスを保っている様子。留学も検討中で、「川崎病(乳幼児の急性熱性疾患)に興味があり、川崎病の研究をするなら東アジアか中国ですが、欧米の国々にも憧れがあります」と、語学習得にも力を入れているそうです。

医学部ゴルフ部 SNS



X (旧 Twitter)



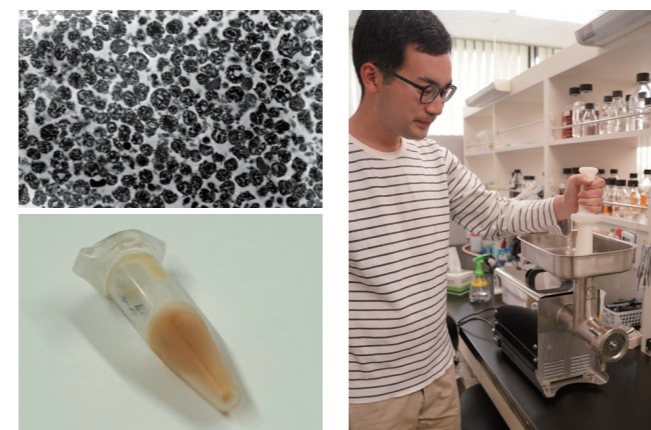
Instagram

ミトコンドリアのタンパク質の構造と機能を研究 とても珍しい『徳島大学の職員を兼ねた修士課程の大学院生』

先端酵素学研究所 / 薬学部 教授 篠原 康雄 (しのはらやすお) 研究室



ゼミのメンバーは19人。篠原先生の還暦祝いをしたり、誕生日祝いをしたり、旅行やドライブへ行ったり、和気あいあいとした仲のいい研究室です。



(上)電子顕微鏡で見たミトコンドリア。(下)ミトコンドリアは茶色い色をしていて、写真はラットの肝臓(1匹分)から採取したもの。小指の爪くらいの分量で、採取する途中にちょっとでも傷つくとバラバラになってしまうので、丁寧にやりつつ速く操作するのが難しいところ。

様々な疾病の発症と密接に関わっていると考えられるミトコンドリア。ミトコンドリアを人為的に制御することで新たな治療法に繋げようと、この研究室ではミトコンドリアのタンパク質の構造と機能についての研究を行っています。

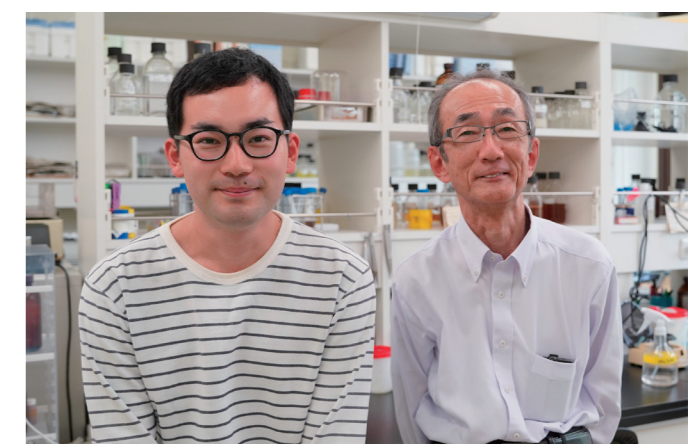
研究の一例として教えていただいたのが、褐色脂肪組織のミトコンドリア内にある脱共役タンパク質について。脱共役タンパク質はエネルギーを熱として発散させる機能があり、その働きをさらに解明することで、抗肥満薬を作ることができる可能性があると考えられています。

この研究室は篠原先生が先端酵素学研究所の教授であると同時に、薬学部の生物薬品化学教室も受け持つ珍しい研究室なのですが、さらに今年度、現役大学院生の武川さんが教務補佐員として勤務するという徳島大学では珍しい事例が加わりました。

「企業などで研究を続けながら、大学に所属して学位を取る社会人博士はよくありますが、修士は珍しい。講義や学生実習などの補助にも精力的に取り組んでくれて、大助かりです。彼は大変優秀です」という篠原先生。

武川さんは「将来は、アカデミアの教員になりたいです。教務補佐員の業務は、大学教員が担う教育・研究を近くで学ぶことができるという点で、とても良い経験になっていると思います。篠原先生からお話が合ったのは1年前前のことで、当時はとても驚きましたが、今では感謝しています。自分の担当する研究テーマの推進と研究室の業務の両立は簡単ではありませんが、将来に向けて研鑽していきたいです。」と話します。自身の研究にも熱心で、今年度の日本生化学会でも発表を行ったそう。

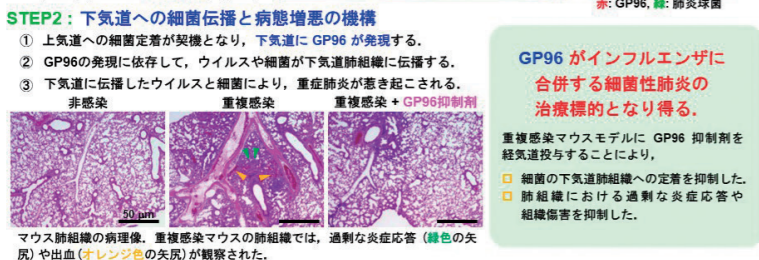
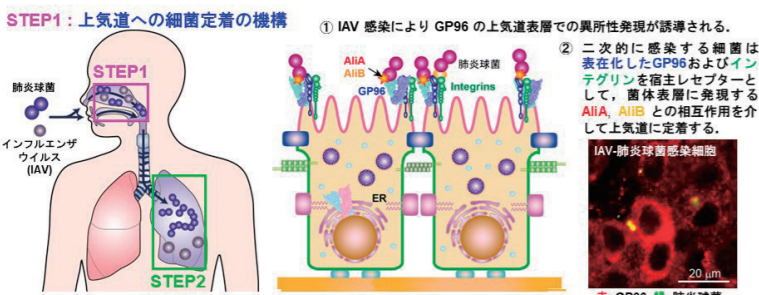
篠原先生の右腕として活躍することで、多角的に物事をとらえ、研究への興味が増しているという武川さん。武川さんがロールモデルとなり、他の研究室でもこうしたスタイルが生まれるかもしれません。



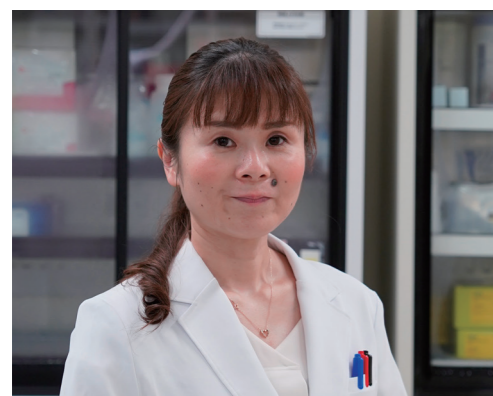
大学院薬学専攻創薬化学専攻M2兼教務補佐員の武川和人さん(左)と篠原先生(右)。

細菌性肺炎の病態形成機構に基づく 新規感染制御法を確立

歯学部 教授 住友 倫子 (すみともこ)



住友先生は徳島大学工学部生物工学科(現在の生物資源産業界学部)で学位を取得し、大阪大学歯学部口腔細菌学教室に教員として15年間勤務。大阪大学に教員として採用される際、研究に加え、授業や実習も行うかなりハードな業務が予想されたため、求められたのは「鈍い人物」だったそう。「よく切れる刃はボキッと折れてしまうけど、鈍は折れない。当時は女性を採用するのも珍しい時代で、強靭なメンタルと体力をもつ鈍いような人じゃないと務まらないと言われていました」。学生時代、環境微生物の研究を行っていた住友先生は大阪大学で新たに感染症の研究をはじめ、歯学部の教育にも精通していたこともあり、徳大歯学部教授として着任しました。



細菌の「足場」となるタンパク質の出現を抑え、肺炎予防につなげる

住友先生は従来の抗ウイルス薬や抗細菌薬とはまったく異なるメカニズムで、肺炎の発症を抑える研究を行っています。

インフルエンザの流行拡大が心配されるこの頃。「インフルエンザをきっかけに、肺炎球菌という細菌や口腔内の細菌による肺炎を合併して亡くなる高齢者もいる」という

話を聞いたことがあるのではないのでしょうか。

インフルエンザに罹ることで、気道細胞の表面に細菌を定着しやすくなる「足場」のような役割をするタンパク質が出現し、この「足場」を伝って口や鼻から細菌が体内に侵入しやすくなるのが、肺炎を引き起こす原因なのだそうです。

「足場」となるタンパク質は GP96 というもので、普段は細胞の奥にあるのですが、インフルエンザに感染すると炎症応答のた

め、細胞の表面へと移動します。これを足がかりに、肺炎球菌などの細菌が GP96 を伝って気管から肺へと侵入します。

インフルエンザも肺炎球菌も感染予防のため、ワクチン接種が行われていますが、中にはワクチンで対応できない型や、タミフルなどの抗ウイルス薬や抗細菌薬にも耐性ができて、薬が効きにくいものもあります。

「肺炎の治療は、細菌やウイルスを殺す方法が主流ですが、私は攻撃を受ける体側に注目した治療を行いたいと思っています。GP96 が細胞の表面に出てくるのを抑えることで、病原体の足場をなくし、肺炎を起こすリスクを避けることができると思っています」

という住友先生。

また肺炎で亡くなる97%以上が65歳以上の高齢者であることから、「高齢者は慢性炎症状態にあり、ウイルスに感染していない健康な人でも GP96 が気道に多く、口腔内細菌による誤嚥性肺炎に罹りやすい状態にあるのでは？」と仮定。唾液中の GP96 の量を測定することで重症化や肺炎のリスクを測る目安にできるのではないかと考えています。

マウスに GP96 の出現を抑える薬を投与したところ、細菌の肺への侵入や肺炎の発症を防ぐことができたといい実験結果も出ており、住友先生の研究が新しい治療法や予防法、検査法につながると期待されています。



作業に必要な時間を知り 生産効率をあげる



「生産システム論」対象：創成科学研究理工学専攻博士前期課程
理工学部 講師 石川 真志 (いしかわまさし)

「生産システム論」は「作業にかかるベストな時間とは？」を学ぶ授業です。授業を修了するとムリ、ムダ、ムラを省き、作業に必要な時間の計算方法も身につくという、社会人も垂涎の内容です。

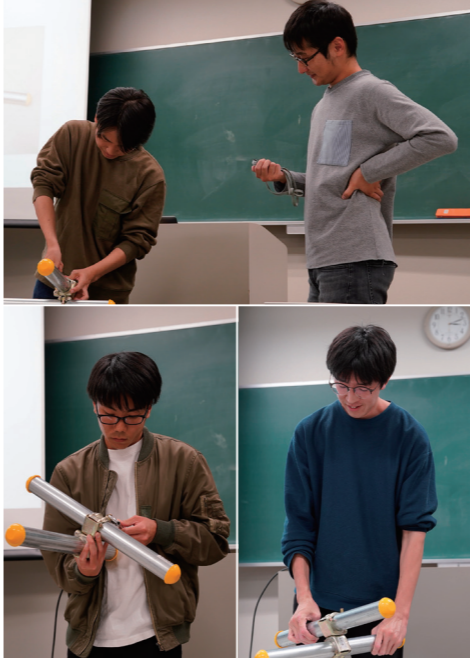
が、最近では大学院へ進学することを決めた4年生の受講者も多く、現在は約80名の大所帯に。受講者それぞれが異なる研究テーマに取り組んでいることを踏まえ、「せっかくなので授業を受けに来ているのだから、誰にでも役立つものを」と、業務の効率化について考える授業へと変化していったといいます。

とが多く、その思いをストレートに伝え、感動を共有することで興味を持ってもらえればと思っております。普段の作業を見直すきっかけにもなりますし、誰もが必要とする内容ではないかと思えます。

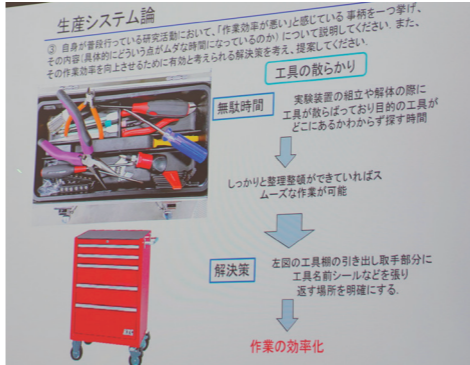
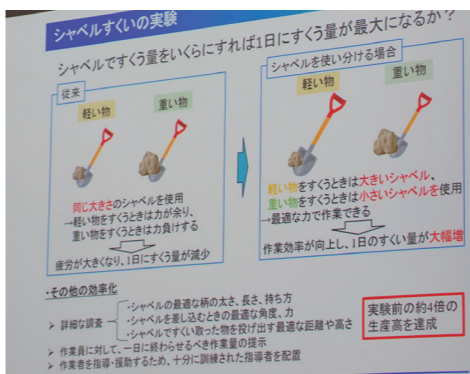
冒頭、前回の振り返りとして『シャベルすくいの実験』（軽いものは大きなシャベル、重いものは小さいシャベルを使うと、同じシャベルで作業したときより生産量が4倍になるといふもの）にちなみ、「自身がやっていることで作業効

率が悪いと感じることを挙げ、作業をどのように改善し、時短できるかをパワーポイントにまとめる」という課題発表も。「道具が散らかりがち」といった「あるある」な状況を、ちょっとしたアイデアで解決する方法など、いくつかピックアップして紹介され、こうしたアイデアを共有することも時短に繋がることが示されました。

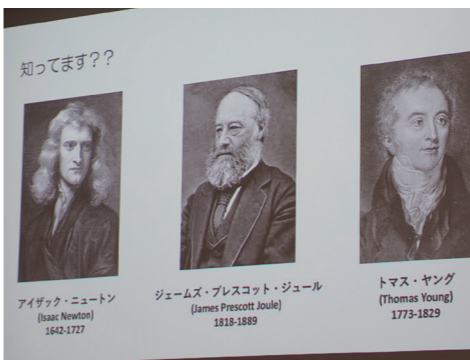
「授業の最終回では毎回、『今、分からなくても就職して業務の効率化や業務改善が必要になったと



この日の授業ではフレームの組み立てに要する最適な時間を算出するため、ストップウォッチ法を用いて2人1組で実験。ストップウォッチを使わなくても、作業に必要な時間を見積もることができるPTS法や標準時間を求めるMOST法についても学びました。



学生たちが作成したパワポ。見せ方にも工夫があり、なかなかの力作です。



アイズプレイク的に時々出題される顔写真から科学者の名前を答える「この人、誰？」という問題。石川先生が昔、「科学の勉強をしているのに学生は科学者の顔知らない」といわれたことがきっかけで、時折出題するようになったそう。

海外 体験記

マレーシアでの「出会い」が 教えてくれたこと

総合科学部 社会総合科学科 3年 谷 優希 (たにゆうき)



筆者(右)



ペナンビーチの夕日

私は2023年2月から5か月間、マレーシアのマラヤ大学に交換留学をしていました。元々英語が好きで「在学中に長期留学プログラムに参加する」という夢を叶えるべく徳島大学に入学し、新型コロナウイルス感染症が収束に向かい始めた2年生の秋に他の提携大学よりも一足早く募集が再開したマラヤ大学への留学を決めました。留学＝英語圏のイメージが強かった私は、マレーシアのような東南アジア諸国への留学は全く考えていませんでしたが、「このまま留学せずに卒業すると後悔する」という思いから自分で半強制的に参加を決めました。そんな突発的に選んだ留学先でしたが、そこでの経験は私をあらゆる面で成長させてくれる、たくさんの素敵な出会いで溢れていたのです。

マラヤ大学は首都クアラルンプールに位置しており、自然豊かで広大なキャンパスと在籍する多国籍の学生が特徴的です。授業ではグループでのプレゼンテーションやディスカッションが課題として頻繁に与えられるため、ハイレベルな他の学生と共に「英語で」学ぶ毎日はとても刺激的かつ貴重な経験でした。また、課外活動として「Language Club」にも参加しており、私は日本語クラスのチューターとして、現地学生や他の留学生に日本語や日本の文化について毎週レクチャーを行っていました。回を重ねるごとに参加学生数が増え、自分たちの力でたくさんの人が日本に興味を持ってくれることに大きなやりがいと達成感を感じたことを、よく覚えています。

仲間との出会い
私は留学中、大学寮で3人のルームメイトと暮らしていました。授業がない日には4人そろってショッピングに行ったり、お互いの国の料理を作ってシェアしたり、それぞれの国の言語を教え合ったりと、一緒に過ごした時間

は全て大切な思い出です。また留学中に会った仲間の多くは、自分の夢について自信を持って語り、それに向かって一生懸命に努力している姿が印象的でした。そんな彼らと話をすることは自分自身の将来についても深く考えるきっかけとなり、「もっと頑張ろう！」といつも私を奮い立たせてくれたのです。みんな、今でも連絡を取り合うかけがえのない存在になりました。

終わりに
この留学を通して、私はたくさん学び、得ることができました。語学力はもちろんですがそれ以上に、困難な状況を乗り越える力・国籍を越えた仲間とコミュニケーションをとる力・目標に向かって努力し続ける力など、たくさんの自己成長を実感しています。「留学＝語学力の向上」だけでは決してありません。「新たな自分を発見したい」と思う人こそ、留学を手段としてぜひ挑戦してほしいです。必ず、皆さんの人生に大きな影響を与えますよ。最後にになりましたが、この留学プログラムに参加するに当たって



キャンパスツアーの様子



Language Clubでのひとこま



ルームメイトと一緒に

サークル紹介

学びサポート企画部



部長アピール

部長 **桐畑 尚真** (きはたなおまさ)
理工学部 理工学科 3年

学びサポート企画部では、大学生の学習におけるつまづきに対して、学習支援を行うとともに、学習をするために必要な基本知識・技能を習得する場や機会を創ることで大学生の学習スタイルの向上・改善を行うという活動理念のもと、学生と図書館職員と教員で、学習相談サービスの運営や学習関連イベントの企画などを行っています。イベント企画をしてみたい人、大学の先生とつながりを持ちたい人にピッタリなサークルです!



Web



X (旧Twitter)

年間の活動

- 4月 新入生お悩み相談会、新入生歓迎会
- 8月 図書館シンポジウム
- 12月 大学教育カンファレンス
- ※大学の授業が開講している期間SSS(Study Support Space)の運営やイベントの企画を行う。

部活

- 週一昼休みにミーティング(日には部員が集まりやすい日で設定)
- 場所: 学生会館2階ボランティア支援室3
- Web: <https://www.tokushima-u.ac.jp/highedu/sca/team/sss/>
- X(旧Twitter): @manabukun_sss
- 入部方法: X (旧Twitter)またはメール(sss.from2013@gmail.com)に連絡

女子バレーボール部



キャプテンアピール

キャプテン **米澤 陽菜** (よねざわ はるな)
総合科学部 社会総合科学科 2年

選手8名、マネージャー2人の合計10人で活動しています! 1、2年生しかおらず、人数も少ないですが、先輩・後輩関係なくみんな仲が良く、毎回楽しく活動しています! そんな中でも大会では徐々にですが結果を残すことができるようになってきました! 女子バレー部は、個性あふれるメンバーが勢揃いですが、まだまだプレイヤー、マネージャー共に大募集中です! 未経験の方も大歓迎です! ぜひ体育館に遊びに来てください!!



X (旧Twitter)



Instagram

年間の活動

- 4月 徳島県春季大会
- 5月 春季リーグ、中四国大会
- 7月 前期クラブリーグ
- 8月 夏季オープン戦
- 10月 秋季リーグ
- 11月 徳島県秋季大会、後期クラブリーグ
- 12月 多智花杯
- 3月 春季オープン戦

部活

- 水・金曜日 16:30~19:00
土曜日 9:00~12:00(練習試合などが入る場合あり。)
- 場所: 常三島体育館
- X (旧Twitter): @TU_volleyclub
- Instagram: tokushima.uni_womenvolley
- 入部方法: X(旧Twitter)、InstagramのDMでの連絡。体育館での練習見学。

バドミントン部



部長アピール

部長 **湯浅 亮** (ゆあさりょう)
理工学部 理工学科 2年

私達バドミントン部は、日々、共に成長し、個々の目標達成を目指しています。学年関係なく、経験者はもちろん、初心者の方も見学いつでもお待ちしております! 心強い仲間と共に楽しみましょう! 一人でも大丈夫! 温かくて、天才すぎる、美男、美女が沢山! 色んなコース、色んな地域の学生が集まっています!一緒に大学生活を色濃くしましょう!



Instagram

部活

- 火曜日 16:30 - 19:00(正規練)
- 木曜日 18:00 - 21:00(正規練)
- 土曜日 17:00 - 21:00(正規練)
- 日曜日 15:00 - 19:00(自主練)
- 場所: 常三島第1体育館 玄関側
- Instagram: @tokudai_badminton
- 入部方法: 新歓の参加もしくは部活の練習見学

年間の活動

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 4月 花見、中四国学生バドミントンリーグ戦
徳島市市長杯 | 10月 徳島県総合大会 |
| 5月 徳島県会長杯、新歓 | 11月 徳島四大学交流個人戦、香川大学定期戦
中四九インカレ |
| 6月 徳島県学生選手権、中四国インカレ | 12月 打ち納め |
| 7月 徳島四大学交流団体戦 | 1月 徳島市選手権、愛媛大学定期戦 |
| 8月 四国総合予選大会、夏合宿 | 2月 中四国国立大学交流戦 |
| 9月 四国国立四大学定期戦、徳島市市長杯 | 3月 高知大学定期戦 |

GREENS



部長アピール

部長 **宮崎 桂郎** (みやざき しょうろう)
理工学部 理工学科 3年

軽音サークルGREENSです。我々は定期演奏会や各文化祭でのライブ、他サークルや他大学と合同ライブなどのライブを主な活動としています。月・水・木・金の週4日間体育館にある音楽ホールを使用することができるので、初心者から経験者までマイペースかつ着実に楽器を上達させることができます。また幅広いジャンルの音楽が好きな先輩たちが集まっているのでいつも会話の絶えない楽しい部活となっています。新入部員はいつでも歓迎しますので、興味を持ってくれた人はぜひSNSをチェックしたり、部室に足を運んだりしてみてください。



X (旧Twitter)



Instagram

年間の活動

- 4月 新入生歓迎ライブ
- 5月 五月祭教室企画ライブ
- 7月 セタライブ
- 8月 合宿
- 10月 常三島祭教室企画ライブ
- 12月 定期演奏会
- 3月 追い出しコンサート

部活

- 毎月第一金曜日に部会(軽いミーティングのようなもの)
- 定期ライブ、学内外イベント参加
- 音楽ホール使用可能日(月・水・木・金曜 8:00 - 21:00)にて各自練習
- X (旧Twitter): @greens2006
- X (旧Twitter)新歓用アカウント: @greens20222
- Instagram: @greens_tokushima
- 入部方法: 音楽ホール開放に参加(SNSに詳しい日時を掲載)

徳大ニュース

香美祥二理事・副学長がアジア小児腎臓病学会名誉会員賞を受賞しました

香美祥二理事・副学長（病院担当）がアジア小児腎臓病学会名誉会員賞を受賞し、現地時間の11月24日、アラブ首長国連邦のドバイにて開催された第15回アジア小児腎臓病学会学術集会で受賞式が行われました。



贈呈式の様子

12月1日、ドイツ大使公邸にて第60回（2023年度）ベルツ賞の贈呈式が執り行われ、西岡安彦教授が1等を受賞しました。ベルツ賞は、ペーリンガーインゲルハイム社が1964年に創設した伝統のある医学賞で、毎年、時宜に応じたテーマで論文を募り、優れた論文に対し授与されています。

環境防災研究センター上月康則副センター長が令和5年防災功労者防災担当大臣表彰を受賞しました

環境防災研究センター上月康則副センター長が令和5年防災功労者防災担当大臣表彰を受賞しました。この賞は、「災害時の防災活動の実施、防災思想の普及、または防災体制の整備に貢献し、その功績が顕著であると認められる団体または個人を対象として表彰されるもの」です。

徳島県発明工夫展で徳島市長賞を受賞しました

10月19日、徳島ビジネスチャ

レンジメッセ2023において、第62回徳島県発明工夫展の授賞式が開催され、病院歯科麻酔科の藤原茂樹外来医長らの研究グループが開発した近非接触ワイヤレス給電式医療機器が徳島市長賞を受賞しました。



群馬医療福祉大学 立原先生 藤原外来医長

宇宙で新しい藍染を！理工学部2年生設計の人工衛星「藍染衛星」Kokihanada（深標）が第31回衛星設計コンテストで日本ロケット協会宙女賞を受賞しました

宇宙航空研究開発機構（JAXA）など9つの学協会が主催する第31回衛星設計コンテストの最終審査会が11月25日に東京都にて行われ、理工学部2年生女性3人グループの設計する藍染衛星「Kokihanada（深標）」がアイデ

ア部門で日本ロケット協会宙女賞を受賞しました。



受賞式の様子

令和5年秋の生存者叙勲受章が決定しました

令和5年秋の生存者叙勲受章が決定しました。心からお祝いを申し上げます。

瑞宝中綬章

赤松則男

元工学部教授、徳島大学名誉教授

教育研究功労

瑞宝単光章

鈴木察子

元病院副看護部長

看護業務功労

総合科学部に新コース

「地域デザインコース」が誕生します

総合科学部では、2024年4月に、公共政策コースと地域

創生コースの2コースを統合し、新コース「地域デザインコース」を設置します。公共政策コースは社会科学の理論面、地域創生コースは地域創生の実践面の教育を得意としましたが、複雑な地域課題の解決には、理論と実践を合わせた視点が必要で、新コースでは、理論と実践を兼ね備え、より総合的な視点から地域課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる専門人材を養成します。



総合科学部 地域デザインコース

油圧シリンダ専門メーカー MIMURA

正社員

採用中!!

建機用ジャッキシリンダ
シリンダ内径 | 130mm
ロッド外径 | 100mm
ストローク | 590mm
使用圧力 | 20.6MPa
最高出力 | 伸び側274KN
縮み側77KN



ミムラテッコウ

真面目は見えない
見えないアイツを
宿らせろ

就職活動中の皆さんに、三村鉄工を正しく知っていただき、入社を希望してもらえるよう、ホームページ、YouTube動画、会社案内などを作成し、たくさんの情報を伝えるようにしています。インターンシップや、会社説明会・見学会なども通年で受け付けています。気になる方は、ホームページまたはお電話からお申し込みください。その他、何かご質問があればお気軽にお問い合わせください！

オリジナル短編動画
「ミムラテッコウ」
スペシャルサイト



オリジナル短編動画
「ミムラテッコウ」
誕生秘話



MIMURA
TRAINING STORY
ものづくりの出発点



マイナビ2025



当社は香川県さぬき市で「油圧シリンダ」を専門に作っている会社です



三村鉄工株式会社

〒769-2105 香川県さぬき市末371番地6 TEL:087-894-7788(代)

You Tubeでも
情報発信中



公式HPは
こちらから



身近なところでNICHIAの
製品は活躍しています

日亜化学工業株式会社
徳島県阿南市上中町岡 491 番地
TEL:0884-22-2311
http://www.nichia.co.jp/



総合科学部 地域デザインコース